

CAP

Child Assault Prevention Program

保護者の皆様

私はまもなくお子さんが通う学校で行われる CAP 子供ワークショップについて少し詳しくお知らせをしようと思います。

CAP の主題はすべての子供たちが安全で、強く、自由である権利を持っているということです。教室でのワークショップは 2 年生と 5 年生では 1 時間半かかり、キンダーガーデンではそれより短い 2 回のセッションで行われますが、これらの権利についての話し合いから始まります。プログラムは自分たちが持っている安全で、強く、自由である権利を保つために自分たち自身に何ができるかということについての考えを深めるよう手助けすることに力を入れています。

CAP の重要な目的のひとつは子供たちやその親たちに安全にかかわる日常的な問題について話し合うよう奨励することです。私たちはわれわれの子供たちが親切で協調性をもっていることを望んでいます。また、安全だと感じながら世界を探検してほしいと思っています。常に子供たちと一緒にいるわけにはかないので、われわれは自分の子供たちが危険性のある事態を認識し、それにどう対処するかわかるだけの術を身につけていると確信する必要があります。現実的な危険性やその対処法についての情報は子供たちの自信を高めます。子供たちが、自分が安全だと感じられないようなことはなにもする必要はないのだと知っておくことは大事です。また、子供たちが、困惑させられるような、または恐ろしいと感じさせられるようなことを誰かがしていたら、親やその他の大人に必ず話すのだと知っていることも重要です。

ワークショップでは、3 人の演者が三つのテーマに焦点を当てたロールプレイを演じます。三つのテーマとはいじめにどう対処するか、見知らぬ人が近づいてきたときどのように安全を保つか、また、よく知っている大人が不愉快なやり方で接触しようとしてきたときにどうすればいいか、です。

それぞれのロールプレイは同じ構成を持っています：

- 最初、演者は失敗例をロールプレイで演じます。
- 次に安全でいるための方策について話し合います：教師または生徒にいじめに関して助けてくれるよう頼む、「ノー」と叫ぶ、知らない人から走って逃げる、顔見知りの大人との不愉快な状況では no と言い、それに対処してくれる大人を探す。
- それから、演者はこれらの方策を使って成功裏に終わるロールプレイを演ずる。

最後に、4 番目のロールプレイとして子供たちの先生と演者が、子供が問題についての助けを求めてきたときに起こるであろう事を演じます。ロールプレイについての詳細は第 2 ページにあります。

プレゼンテーションの後、子供たちは内容のおさらいや明確化、補強のため演者の一人と話すことができます。子供たちが問題の解決にわれわれの助けを求めるときもあります。子供たちは常に親のところへ行き、CAP ワorkshop で学んだことについて話し合うよう奨励されます。

私的公的基金からの援助とともに、PTO はお子さんの学校での CAP プログラムを支援しています。親御さんからの許可が必要です；学校長が許可手続きについてのお知らせをくれるでしょう。私はまたあなたが親向けのワークショップに参加されることを望みます。さらにご質問がある場合、私の連絡先は(617)969-5906 内線 143、メールアドレスは gsommer@ncscweb.org です。

敬具

ゲイル・ソマー(Gail Sommer)

ディレクター、コミュニティ サポート アンド プリベンション(Director, Community Support and Prevention)

CAP

Child Assault Prevention Program

ロールプレイについての詳細

1. いじめの状況：低学年の子供たちにはプレイグラウンドでの問題、5年生ではばかにする問題。どちらの場合も：すべては顔を合わせての対立、ただし5年生の状況ではインターネットの使用を含む。

三つの方策に焦点を当てた話し合い：

- 「NO」と言って安全で、強く、自由でいる権利を守る
- 友達に助けを求める
- 信頼できる大人のところへ行く

われわれは信頼できる大人に助けを求めていくことと誰かを面倒に巻き込むだけの告げ口との違いについて話をします。いじめと肉体的に戦うことはいましめます；いじめる者にも傷つかない権利があります。

2. 物をあげる、新聞の写真記者をよそおう、新しいゲームセンターでゲームをただでやらせてあげるなどと言って一緒にどこかへ連れて行こうとする見知らぬ人。

話し合いは「見知らぬ人」とはどんな人かをはっきりさせることから始まります。子供たちは見知らぬ人とは単に自分が知らないあらゆる人だと学びます。CAPは世の中のほとんどの人は親切で思いやりのある人だけれど、ある人がいい人かどうかは見かけでは判断できないと教えます。だからこそ誰か知らない人が話しかけてきたとき、安全で、強く、自由でいるために何ができるか知っていることが大事なのです。われわれは子供たちが親から知らない人に対してどうすべきか、またはどうしたらいけないか言われているかについて話し合います。CAPは子供たちにできる肯定的なことを重点的に取り扱います：

- 安全な距離を保つ、
- 見知らぬ人に恐怖をおぼえたら大きな声で「ノー」と叫ぶ（特別な叫び）、そして
- 走り去って他の大人のところへ向かう。

われわれはまた子供たちに効果的に使えるいくつかの非常に基本的な技を教えます。キンダーガーデンのロールプレイでは大きな人形が使われます。

3. 親しいまたは知っている大人が子供にとって不愉快なやり方でさわる、子供にキスを強要しそれを秘密にするよう強いる。こどもはまた何かをあげるからその大人が要求することをするようにも言われる。

話し合いはいくつかのテーマの周辺に焦点が当てられます：

- 子供が安全だと感じられる接触やキスと不愉快な、または子供たちがしばしば「アッオー」と表現する感じを起こさせる接触やキスとの違い；
- 安全な秘密と危険な秘密との違い；
- 誰かが子供に不適切な行為をした場合、それは子供の落ち度ではないということ。子供たちは自分たちが言っていることを信じてくれ、安全だと感じさせてくれる大人が見つかるまで話して、話して、話すよう教えられます。
- 子供たちに利用できる手段。子供たちは危険な秘密を持った場合誰のもとへ行くことができるだろうかと考えます。子供たちはしばしば親を考えます。しかし、子供たちはコミュニティの中の他の大人も自分たちや家族を助けることができるのだということを理解します。信頼できる大人として子供たちがよく例にあげるのは先生や校長先生、親族のひと、宗教上のリーダーや親友の親たちです。

4. 最後のロールプレイでは教師と演者のうちの一人が子供が問題に直面している状況を作り出します。教師は問題について話すよう子供の決断を促します、そして、会って問題を解決するための時間を設定します。

子供たちはいじめや見知らぬ人のロールプレイでは助けになる友達として参加します。